

福



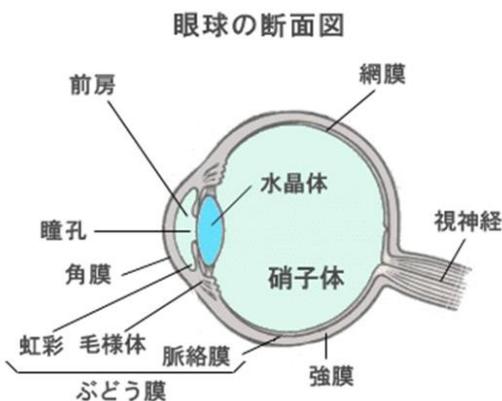
ひぶんしょう 「飛蚊症」のお話



福

こんにちは。院長の梅津由子です。昨年末からインフルエンザが猛威を振るい、風邪をひいている方も多いようですが、皆様いかがお過ごしですか。暖冬だった昨年に比べ積雪も多く、除雪作業でお疲れの方も多いのではないのでしょうか。

さて、最近「飛蚊症」で受診する方が多くみられます。目の前に「黒いものがとぶ」ことを眼科では飛蚊症といいます。蚊が飛んでいるように見えるという意味ですが、実際にはこの他に水玉、ハエ、黒いスス、糸くず、お玉じゃくし、輪などが見えることもあります。また黒いものから透明なものまで色もさまざま、数も1個から数個、時に多数のこともあります。これらのものは目を動かすと、ふわっといった感じで目といっしょに動いて見えます。

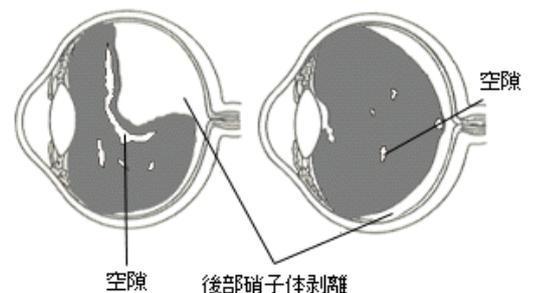


飛蚊症は、眼球の硝子体に濁りができたためにおこる症状です。硝子体は、水晶体の後方から網膜に達するまでの眼球の大部分を占め、生卵の白身のような透明でドロツとした物質です。本来透明なはずの硝子体に、なんらかの原因で濁りができると、そのかげが網膜にうつり目の前に見えるようになります。これが飛蚊症です。

40代頃から硝子体は徐々に組成が変化し、60代前半に網膜と軽く癒着していた硝子体の収縮と前方への移動のため、癒着がはがれ後部硝子体剥離という状態が起こります。この後部硝子体剥離が突然の飛蚊症の原因として最も多いものです。

後部硝子体剥離は、硝子体の年齢による変化としておこるわけですが、これが引き金となって病気がおこることがあります。中でも最も注意を要するのは放置すると網膜剥離に進展する網膜裂孔という病気で、後部硝子体剥離の6~19%におこります。また飛蚊症になる前か後に、ピカピカ光るものが見えた場合には、後部硝子体剥離がおこったと考えてまちがいありません。

後部硝子体剥離のいろいろ



飛蚊症を自覚したら眼科を受診し、精密検査をうけ、放置しておいてよいものかどうかを診てもらうことが大切です。特に60歳前後に突然飛蚊症を自覚した場合には、なるべく早く眼科医を訪ね、後部硝子体剥離の有無、それによって生じる可能性のある病気、特に網膜裂孔の有無をチェックしてもらうことが大切です。

目玉いきいきライフ

目玉いきいきライフのコーナーでは、
目の健康に関する情報や、
耳より情報（眼科だけどっ）をお届けします。



★医療事務の受付スタッフが仲間入りしました★

医療事務のはなです
よろしくお願いします



昨年から仲間になった医療事務のはなさんにインタビューしました！

★医療事務になろうと思ったきっかけは何ですか？

小さい頃、病院に通う機会があり、医療に興味を持つようになりました。そこで医療事務という職種があることを知り、医療機関における事務では、医療保険制度に関する専門的な知識が必要だと思い、医療事務の資格を取りました。

★はなさんの好きなことを教えてください！

ラーメンが好きで、なかでも龍上海のような太縮れ麺の辛味噌ラーメンが大好きです。もしオススメのラーメン屋さんがあれば教えてください。



★はなさんの意気込みを一言お願いします！

医療の現場では学ぶことが多く、至らない点があるかと思いますが、スタッフの皆さんにご指導いただきながら日々の業務に励みたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

IPL 光治療 お知り合い・お友達ご紹介キャンペーン

ご紹介カード配布期間
1/6～3/31 まで



ご紹介いただいたお知り合い・お友達が、
新たに IPL 光治療の施術を受けられたら

お2人に 2 回目以降の施術料
2,000 円割引チケットをプレゼント！



※ご紹介カードの配布は、IPL 施術を当院で受けたことがある方が対象です。

※学割・MGD モードでの施術はキャンペーン対象外となります。

完全予約制

お気軽にスタッフにお声がけください。